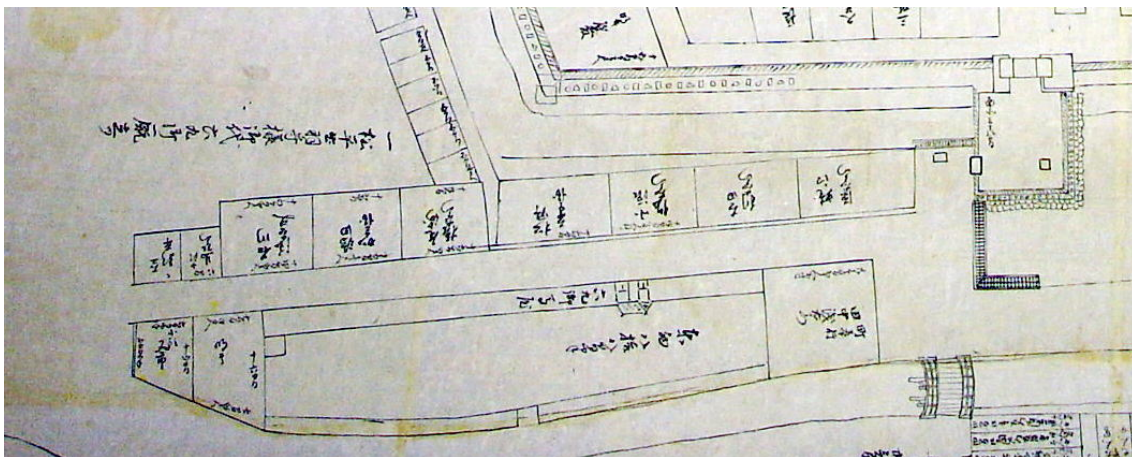


ガイド

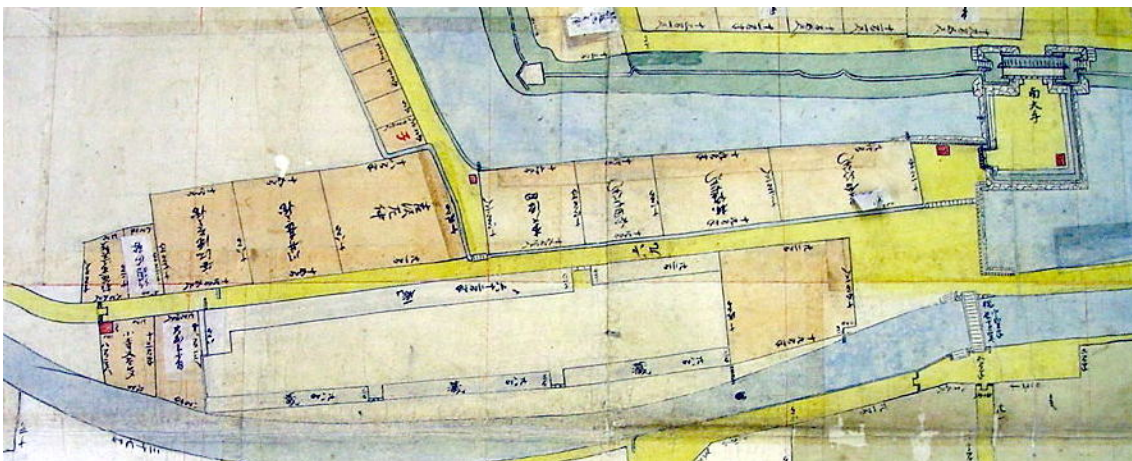
六九町の変遷

1、元禄期松本下町絵図(1688~1703)



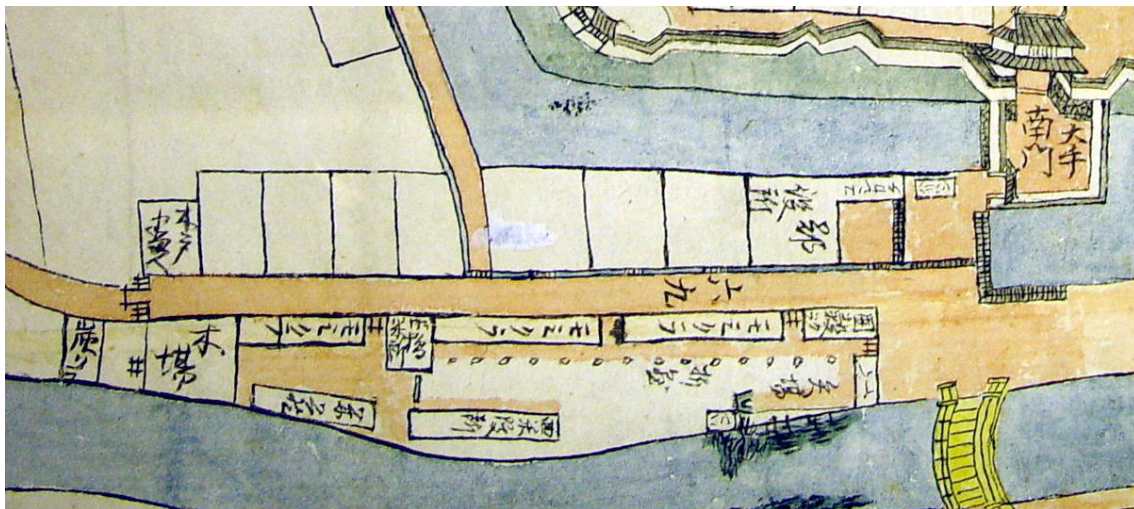
水野時代「元禄期松本城下絵図」に書かれた六九町は道の南側には88間半に渡って厩が（六九御馬屋）が建っている。馬屋の南側は調教のスペースと考えられる。寛永10年に入封した松平直政が建設したものである。道の北側は武家屋敷が並んでいる。厩の東側は町奉行田中浅右衛門の屋敷である。女鳥羽川沿いの細長い建物名は不明。

2 享保13年秋改信州松本城下絵図(1728)



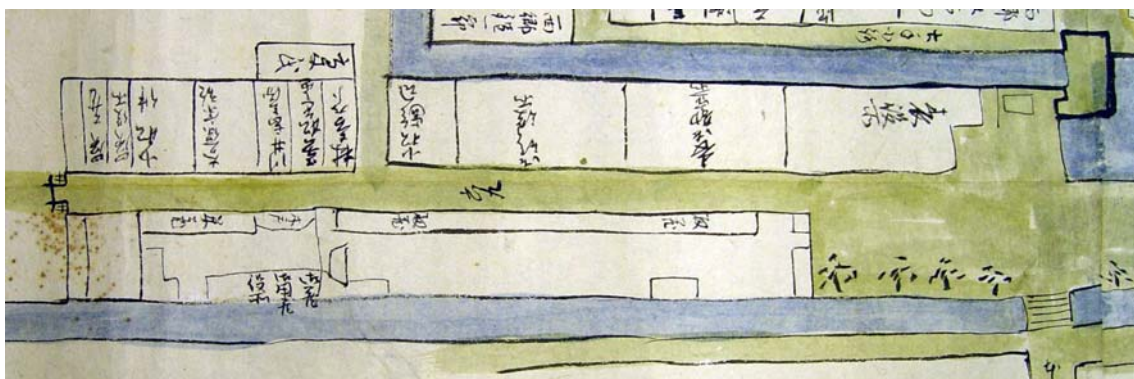
享保13年秋改図である。安永5年（1776）の大火で六九町は全焼する。その後、馬屋の再建はなく「万俵蔵」が建設されている。蔵は女鳥羽川沿いにも建てられている。蔵の建つ道より南側のスペース東側には空き地があり、西側には二軒の武家屋敷が見られる。また、六九町西口には木戸が造られ木戸番小屋（赤□）が設置されている。

3 文化5年から天保6年頃城下絵図(1808~1835)



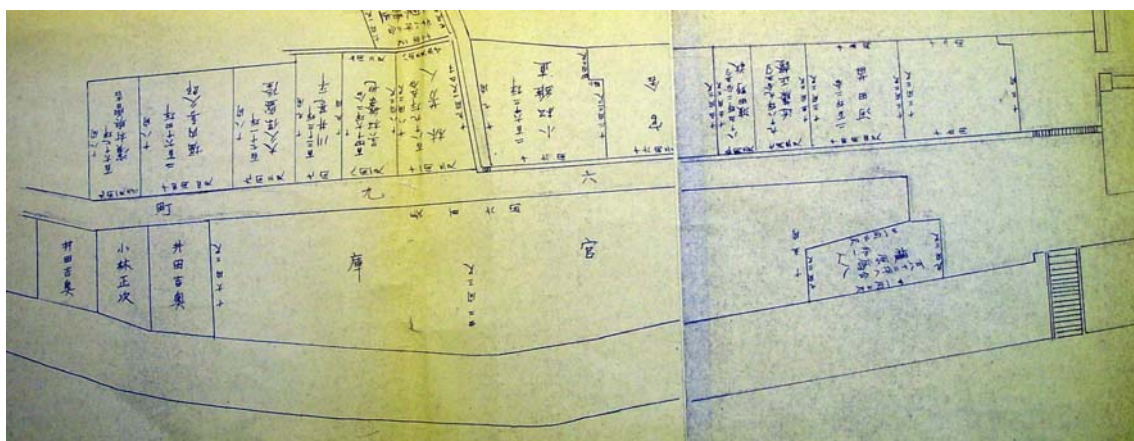
道北には郡役所が設置され、道南では矢場が設けられている。木場や炭蔵が西側に見える。

4 安政3年から文久元年頃家中屋敷図(1856~1861)



御郡所は表役所と書かてている。表勘定所・御預役所が見える。

5 明治5年松本侍町絵図(1872)



明治5年には廃藩置県を経て松本は筑摩県となっており、六九の道南は「官庫」となり御預役所は官舎 表勘定所は住宅となっている。明治12年御預役所は東筑摩郡役所となる。